愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月十日廿五日發行

（定價）一枚金六錢 一ヶ月分拾貳錢 三ヶ月分參拾六錢 半年分七拾貳錢 壹ヶ年分壹圓四拾錢（全國無遞送料郵券代用（寄錢又は五厘切手）一割增）
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麴町區下二番町三十七番地 大日本女學會內 愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社說

割烹の四大必要（承前）

料理は人類の性質上よりも、衛生上よりも、必要缺くべからざる所以を、前號にものしたるが、更に經濟上に就いて述べんに、如何に好き材料を求め、上等の味淋醬油等の味料を用ゐんも、料理拙くして加減鹽梅を愆らば、啻に其物の不味のみならず、甚しきは食用に堪へざる物となるべし。又は漬方の惡しき爲に、あたら大切の食物を腐敗せしめ、或は火力の度を過ッて焦げつかせ、若くは片煮と爲し、或は不注意の爲に、蟲など不潔物を混じ、料理の全部を棄却するの止むを得ざるに至る等、不經濟の例は枚擧に遑あらざるなり。蓋し食料は、其價高きもの必ずしも美味にして滋養あるにはあらず、其價の廉きにも拘らず、料理の仕方に由りて、美味となり、消化も宜く、且つ滋養に富めるもの少しとせず、是れ主婦たる者の心すべき點なり。彼の小料理屋などに注文したる仕出料理は、其拵へ方に不潔の虞なきを保せず、されば大抵の客膳に至るまで、成るべく手製の料理にて濟さん事、最も望まし、是れ單に經濟上の利益に止まらざれはなり。關東各地の町には飲食店比較的に多し、是れ人々が出先に於て飲食する事多き習慣に由ることならん。關西の人々が、遊山に出かくるに、大抵行厨の用意を爲せるは、甚だ良き風習なりと思ふ。

次に料理の巧拙は、一家和樂の上に影響すると實に尠少ならざるなり。料理は毎日の事なれば、若し主婦たるもの料理法に拙劣不注意なるときは、父母夫を始め、一家族の不滿足を感ぜしむると、衣服諸調度の不滿足よりも一層甚しきものなり、終日外に働ける者家に歸り來り、一家團欒して談笑の中に好める食事を爲し、以て終日の勞を慰むべし。若しも料理拙くして勞を慰むるを得ざるときは、外に働ける者、家に歸るの樂み澌らぎて、圓滿幸福なる我家、即ちホームの觀念を失ひ、冷やかなる家庭となり了るべし。

近頃料理の事に、稍人々の注意を惹くに至れるは、甚だ喜ぶべきことなり。世の主婦たる人々、希くは此四大必要に鑑み、料理の上に綿密なる注意ありて、家族の滿足を得て、其職業を勵ましめ、一方には仕事の效果を増加し、一方には無駄の費用を節減し、以て一家の繁榮を加へられんことを。記者は切に望む所なり。

◎女子教育の前途に就て

評議員　下田歌子

◉今日の女子教育　女子教育は、維新後に男子の教育に續いて、一度び盛になりましたが、種々の障りから蹉跌し、再び盛り返し、此兩三年來有望なる趨勢となり、もう先年のやうな悲慘な事に遇ふ事はないと信じますが、一度び色を染めたものはなかなか落ちないもので、惡しき處の根が殘ッて居ると、何時の間にか芽か出て草が生へるやうな事があります。今日では普通教育の一通り位は、妻となり母となる者か、心得て居て呉れねばならぬとの希望が父となり夫となる所の人に段々出て參りました故、必ず再び倒れる樣な事はあるまいと思ひます。而し誠に杞憂に堪へぬ事は矢張り流行と云ふ氣味があります、必要であるからと云ふのでなく、流行と云ふ傾向があります、地方あたりでも父兄の話しに、小學卒業以上は、學問は要りませぬから、止さそふと思ふに、お友達が東京に行ッたから、又は親戚の某が高等女學校を卒業したから、是非自分も出たいと云ふので、余儀なく高等女學校に入れたと云ふものが多い、故に流行であると申すのである。

◉教育の發展不十分なり　學校へ這入る娘が、小學校位卒業したのでは、人の妻となり母となるの資格がないから、必要的に這入ッて來るのでないから、實に根の無い浮草に花が咲くやうなものて、其精神が浮薄である。又學校の方にも信ぜられない處がある。元來女子教育の生れ方が、日本の女子は是れては困るから、此半世紀間には、是迄の成功を見なければならぬと言ッて、開展されたものでない。只國の躰裁、國の交際からして發展した方が多い、それも仕方がない世の中の事が

變遷する過渡時代であるから、已を得ぬが、一時其生れ方が間違ッて居るから、何うしても不十分と云ふ事は免れない。

◉直譯的の教育　日本の女子教育は、日本の婦人社會の歴史や習慣を、十分に取調べた上に打ち立てられたものならばよいが、總て直譯的であッて米國流の教育として、理科算術生理など無暗に押込んだり、日本國語を歐米の教へ方のやうに鑵込んだりして、要するに日本の女子教育は根據のない趨勢に促されて生れたので、恰も少さい子供に着せるに、大人の着物を用ゐた樣なもので、切ッて見たり附け足して見たり、迷惑千万な目に遭ッて居る。且つ其中で最も困難なるは直譯的の結果精神的教育の部面を拔いて仕舞ッてある故、遂に骨を拔いた樣なものが出來て居て。心捧がなくなッて仕舞て居る、是れは歐洲の宗教主義の修身を、其儘入れても困るからと云ふので、六ケ敷いからそッと遺して置たのであろふが、唯惜むらくは、維新前後濟々たる多士が、澤山出て政治や商業やに、光彩を放たれたにもかゝはらず、大切なものを除かれたのは、女子教育社會の不幸である。

◉學校に這入る時の覺悟　次に女子教育の前途に就て申しますが、二十世紀の國民の母となる者は、普通教育、普通の常識を具へると云ふことは、女子でもしなければなりませぬ、是丈けは動くまいと思ひます。而し私の憂へます所は、是ならば第二の國民を托するに足るやうな人は、どうも少ない。第一學校に這入り方が前に申す通り流行を追ふが如き風では、誠に賴もしくない。よく胸に手を當て、考へ是れて人の母になれるだろふか、是て人の妻になれるてあろふか、如何にしたらば、伏仰天地に恥ぢないだけの婦人となる事が出來るか、着實なシンミリとした覺悟を以て、社會に一歩を踏出すと云ふ婦人が、出來て貰ひたいと思ふのです。

◉幸福なる時か否か　今の時は如何なる時てありますか、まごついて居る時ではありませぬ。一方には東洋の風雲益々急になりまして、世界各國の視線は東洋に集ッて居る今日、斯ふ云ふ時に當りては、男子も女子も賢も愚もない、日本の榮ゆると衰へるとは、國民の双肩に擔ッて居るのである。併し考へれば、吾等は無上の幸福の時に生れた者、又無上の不幸の時に生れた者と言ッて宜い。若し吾等が果して爲すなき者なくば、それは不幸の時に生れた者であります。若し吾等國民が爲すあるならば、非常な幸福な時である。故に吾々女子は男子の心を引立て、之を高潔にし强くし、さうして內を顧みること無く、國家の爲めに働かせるやうに男子をして、吾が母我が妻吾が娘は何う云ふ事に當ッても、吾が無き後を辱めて呉れるやうな者てないと云ふやうに、男子の心を振起させる事か必要と思ひます。（家庭革新演說會にて）

電話番町壹千三百三十番

◎本號附錄には評議員吉田里子幹事川越みき子同伊澤千年子の肖像を掲ぐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論説

◎我が將來の文學に對する女性の責任

伯爵　大隈重信

此一編は此程貴婦人交際會に於て伯爵のものせられたるものなるが校閲を經たるものに非ざるを以て文責記者にあり

●第一女性と文藝　一體此女性は、生れながらにして文藝に最も趣味を有つて居る者である、女性方は男性方に比すると神經の組織が甚だ微妙である、細かにして鋭い、且つ感覺が甚だ敏捷である、總て物を直覺に見ると云ふ性質を有つて居る、又女性はなさけが深い、想像力が女性は餘程勝れて居る、故に西洋でも女性は美しき性質のもので、且つ柔順なる性質を具備して居ると申す、そこで女性方は風雅の才に秀て居る、殊に文藝には最も女性が適する、其證據には何れの國でも文藝の起源發達は、皆女性、若くは女性に似た男性に依つて發達せられて居る、又詩人、若くは藝術家は、男性にしても、やはり女性的の性質を有ッたものによッて盛になッたものである。元來男子は勇氣のある、勢ひか強ひ、戰などに兵器を執ッて敵に臨むと云ふ勇氣を有ッて居る、所か大概文藝家、若くは詩人と云ふ者は、女性に似た人によッて、盛んになッたものであると思ふ。

●第二日本文學と女性　我邦の文學、殊に純文學は、女性に負ふ所が甚だ多い、全く女性に依ッて發達したんてある、是は殆ど世界に類ひなき事である、西洋に於ては、女性の純文學に於て名を顯はした者は餘り聞えないが、余の知る所では、紀元前に希臘にサッポーと云ふ女の詩人がある、是は全く詩人て、敍情詩をやッた方である、所が今より殆ど九百年前、十一世紀の頃に、既に日本ては紫式部と云ふ女性が、全く其當時世界に比類のない、大小説を拵へられた、之は恐らく日本のみならず、世界に一番古ひ純文學者であると信じます。次に支那に於ても、隨分女性にして餘程の詩人も、文章家もありましたが、是も全く敍情詩に止ッて、一人も名を成したものはない、それから漸く十八世紀以後に至ッて、段々外國に於ても女性の文學者が起ッて來て、佛のスタエル夫人、英のオースチン女史、英のエリオット女史と云ふ如き、名高い小説家が起ッた、是は十八世紀後のことである。

●第三女性的文學と其利害　日本の女性が、全く日本の純文學の基を成した爲に、女性が日本の文學に負ふ所は甚だ多いが、其爲に生じた所の利益と、及弊害と云ふものがある、其利益を申しますと、先づ純文學の方ては物語、即ち紫式部の源氏物語、これは日本の文學に於て一番大切なものである、次に歷史、史談には、榮花物語、次に和歌、これは澤山ある、衣通姫、小野小町、和泉式部等女性の名高い歌よみの方がある、隨筆其他には、淸少納言、即ち枕の草子、是等のものが主に女性に依ッて發逹せられ、それに因ッて起る利益は、御婦人方に最も特有なる優美、嫺雅、若くは綺麗、纎細、或は溫柔、濃情、是れ則ちそれから起る所の利益である。

其弊害は何であるかと云へば、貴族的、それから纎弱腐敗、規模狹少等の弊がある、之を要するに雄大、豪宕、壯烈の風が甚だ乏しいのである、これに就て其當時の時代精神をお話する必要がある、日本文學の起ッた源因、當時の歷史を御話せんに、支那から文字を日本に導いた時に當ッては、日本の言葉を書現はすに困難である、故に男子は漢文を其儘用ゐ、女子は假名で日本の從來の言葉を記すことになッた、そこて男性的の文章と、女性的の文章とが分れたんてある、其時代は所謂平安朝の時であッて、王權が衰へ、皇后樣の權力、所謂る外戚の權が強くなッて、朝庭に仕へる官女たちにも、國々より才能あるもの、文學に秀でたものが、段々顯れて朝庭に集ることになり、文學の研究に務めた結果、國文が發達して、紫式部、淸少納言と云ふ天才が現はれ、男性は此女性の感化力に依ッて一變した有樣てある。

●第四女性的文學の崇拜　平安朝時代の女性文學が、今に至ッても尚崇拜されて居る、所がそれより生ずる弊害である、則ち紫式部とか、淸少納言とか云ふものが、標準となり、是が代表、殆んど一の偶像となり、方針となり、全くそれが模範、金科玉條となり、其以外に何もない如くに、之を崇拜すると云ふ弊が起ッて來たんてある、恰も希臘のホーマー、伊太利のダンテ、英のセキスピアを、後世の文學者が崇拜する如く、皆崇拜し、已に德川時代、近世の作家ても、假令へば西鶴や、近松や、種彥、馬琴と云ふ如きものてさへも、尚之が崇拜者たるを免れなかッたのである、夫れ故我文學と云ふものが、動もすると纎弱に流れる、貴族的に流れると云ふのは、全くそれから導かれることと自分は信ずる、今日此平民的、若くは雄大なる世界的と云ふ所の氣象は、日本の總ての作者に全くない、或は偶に有ッたか知らぬか、甚だ乏しい事を私は斷言する。

●第五文學に男女兩性の調和なし　日本文學の標準、模範たる王朝時代から、今日に至るまでの變化を陳べんに、其以來文學が余程盛になッて來たが、矢張り等しく女性的と、男性的と云ふものが始終相對持して居るのである、之を調和して眞の日本の文學と云ふ、男性女性通ずる所のものは少しも出來なかッた、其當時の男子の紀行などを見ると、殘らず漢文て、和文の紀行は僅に紀貫行の紀行の如きものであるが、男子と女子との間の文を一にすると云ふことを、貫之の如き學者が企てたかと云ふに、其痕跡がない、其以後大鏡、增鏡、水鏡等皆男性の拵へたものであるに拘らず、全く女性的の文章である、どうも男性と、女性が混淆して、一の日本の文學とならないのは甚だ遺憾であると思ふ、今日に至ッて尚其通りである、殊に德川二百五十年、漢文學を奬勵し、又は古文學を奬勵した爲に、日本のことばと云ふものが、非常に亂れた、是が即ち日本の文學に於ける今日の弊害の大なるもので、而して文學のみならず、敎育の上、其他百般の上に困難である、全躰日本を除く外、男子と女子と文を異にして居ると云ふ國は世界にないのである。

●第六將來の日本文學　斯う云ふ弊害が成立ッて居る、之を救ふにはどうすれば宜いかと云ふことを以て、此議論を結びたいと思ひます、私は感じまするに、凡そ女性の感化力の強い者はない、殊に男子に及ぼす所の女性の感化力は、實に偉大なものである、已に王朝の女性の感化力は、とうとう其王朝の男子をして、皆女性的に爲して仕舞ッた、其間に田舍の武士、源平兩氏の如き者が、王權を奪ッて仕舞ッて、遂に七百年間、暗黑の世界に此國を陷れ、王朝維新に至ッて恢復せられた、此七百年間の騷動は、つまり女性的の感化力よりして、事茲に及び、遂に其利益のみを收めずして、弊害に陷ッたのは、男子の罪ではあるが、女性其者も、亦少しは責をお分ち下さらねばならぬと思ふ。

女性の感化力は第一に夫に及び、家庭の主人として其子供に及す、凡そ世界の英雄、豪傑、最も偉大なる人は、母の感化によることが父の感化より強いのである、此感化力は偉大なるもので、母の好む所は隱然家庭の好尚となり、此家庭の感化が、一般に及ぶのである斯の如き偉大の感化力がある女性に依ッて、日本の文學が源を開いたならば、將來の日本の文學に於ける所の女性の責任も、實に重いものであると思ふ。

今日學校の敎育を見ると、まだ餘程古文學を維持して、從來の文學の弊たる貴族的、纎弱なる、狹隘なる範圍の、所謂古文學に、始終偏して居るやうに思ふ、是は甚だ遺憾な譯である、故に總て是までの古文學を皆葬ッて仕舞ひ、貴族的ではいかぬから、國民的、平民的に成らねばならぬと考へる、平民的、國民的文學を、女性に依ッて鼓吹する、且愛護する、愛護するのみならず、女性のお方々が、祖先の如き才力を發揮して、御自分て一つ此ものを拵へることに成らなければいかぬのである、文運發達の今日、二十世紀の紫式部が、必ず女性から現はれることを私は信ずるのである。

（完）

神居古潭といふ所にて

評議員　下田歌子

片岸に神さびたてる八千たもの
　古木のこすゑ風すさふなり

北海道なる汽車の中にていたやといふ紅葉を

しつかふくいたやの紅葉うつろひて
　秋風さむし砂川のさと

石狩川のつゝみ切れて水打ちひたりたる道を旭川なる第七師團へ急ぐとて越えけるをりに

陸にやる船のためしをうらうへに
　わか小車は引かるへきかな

川水にしつかゝまとはひたされて
　蛙なくへくなりしいほかな

高き身も賴むなよ人千歲へし
　大木も水に流さるゝ世を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎家庭革新の目的に就て

子爵 渡邊國武

此一篇は本月十四日神田青年會館に於て開會せし家庭革新演説會に於ける氏のものせられたる演説の大要なり校閲を經さるものなるにより文責記者にあり

◉文明の眞髓　今の人が口を開くと文明開化と云ふが、文明と云ふことも種々な階級があり、性質があり、種類がある譯で、昔て謂ふと印度の文明、支那の文明、埃及の文明、希臘の文明等種々の階級があるが、今の文明と云ふことは、歐羅巴文明を指して謂ふのである。そこで此歐羅巴文明が果して絶對的なる宇宙の眞理あるや否や、別問題として、私が政治家の眼として觀察するに、是は世界の大勢力、此文明を吸收し之を利用し、能く之と同化したものは勝つて榮へ、之に反するものは衰へる故に此文明が世界の大勢力なる事は論はない。そこで我が日本國が此文明を吸收する仕方は如何と云ふに、餘り客觀的事實上を眞似するのみで、主觀的精神上の方が足りない、それで此精神的に文明を修養するには、如何にすればよいか、此修養如何と云ふ事が、國家の安危存亡を決する所である。

◉家庭改良の困難　修養の方法は他はない、即ち教育と云ふ事である。教育に三つあり、一に家庭教育二に學校教育三に社會教育である、そこで此中何れが重かと云へば、人間の人格と云ふものは大抵家庭の教育によるものである。學校教育は之を修飾し社會教育は之を訓練するに過ぎないから、是非共歐州文明を吸收し利用し同化する爲めには、家庭の教育と云ふことに重きを措かなければならぬ。就ては家庭の改良革新と云ふことが必要である。完全ならざる快樂ならざる家庭に於て、完全なる家庭教育を施すことは出來ない、文明を吸收するには家庭の教育を完全ならしめ、之が改良を謀る事が必要である。風俗改良の內でも家庭改良が重用であつて、又一番六ケ敷い仕事である。百聞一見に如かずて、私は實際に見ようと思ひ、昨年の夏から末にかけ、各國を廻り歩き觀察を遂げましたが、其結果凡ての改良革新の中で、此家庭の革新と云ふことが一番六ケ敷いと云ふ觀念を、いよ〳〵確めて來ました。

◉世界に於ける二個の主義　それで私も家庭の改良革新の事に就いては、種々のことを考へて居るが、女子教育と云ふことが不完全であつたならば、到底立派な家庭は出來ないが、此女子教育をする前に、如何なることに教育し如何なる家庭の主宰者主人公を造ると云ふ觀念無しにやると云ふ事は、途方もない間違であると思ふ。そこで家庭革新の難い所以は何處にあるか、一躰人間と云ふものは、隨分嫉妬心がある、猜疑心もある、甚だ統一するに難いものである。併し之が斯の如く協和一致して社會を成し國を成すに就ては、世界の上に二の方法がある、其第一は最も嫉妬心猜疑心の少ない親子夫婦の間の感情を、十分に溫めて、其間を能く整理して、それから段々廣く社會に及ぼして行く、之か一の方法である。支那の三綱五倫と云ふ事も其の方法である。偖て此人倫の間を溫めて行くには、歲の少い者は歲の多いものの薰陶を受けねばならぬ、其間に自から秩序階級を要し所謂る孝とか悌とか云ふ名目か起つた。處が此階級制度の弊が極端まで押し及ぼし、父父たらざるも子子たらざる可からすと云ふまでに至つたのは、此教育の弊害である。

◉歐州の家庭主義　第二の方法は、相互相愛すると云ふ事で、神の前にあつては皆兄弟姉妹であるから、互に相愛しなければならぬ、斯ふ云ふ主義で嫉妬心とか猜疑心を去つて社會を成して行く歐州の家庭と云ふものは此基礎の上に造られてある。そこで東洋の倫理なるものは前申した通り秩序的であつて、一方の倫理なるものは相互相愛主義である。此二つを同化して行くと云ふことが甚だ六ケ敷い、今歐州の文明を修養し吸收することは必要であるが、それを東洋の元の通りの家庭を以てしなければならぬと云ふことは、殆ど圓き物に四角な蓋をしたやうなもので、是は出來ないことでございます。

◉確乎不拔の信念と主張　家庭の主人公主宰者たるものは、婦人であるからして、婦人をして先づ確乎不拔の信念あらしめよ。確乎不拔の主張あらしめよ。蓋し確乎不拔の信念は何れかの宗教に據らざるを得ぬものである。愛と云ひ慈悲と云ひ仁と云ひ、之を達觀すれば大抵同じ事を言つて居るのか知れぬ。兎に角く之について確乎不拔の信念を作らねばならぬ。家庭の主宰者が絶對的に服從主義を取つて、一向自己の信念も主張もなくして、家事を料理すると云ふことは、六ケ敷い事であるから、之が家庭を革新する第一義である。男子が政治上に實業上に働かうと云ふには、內に立派な主宰者がなければ出來ないことである。故に此觀念を養成して、天下國家に及す事が必要であると思ふ

童話

美しい花

巖谷小波閱
高階柳蔭譯

類子さんと云ふ可愛らしい娘ちやんが、ある日お庭へ行つて花壇の傍で遊んでゐましたが、それは薔薇の植込であつて、紅色い花や深紅の花が、今を盛りと咲きみだれてをりました。あまり美麗であるから、類子はそこに佇んで見とれてをりました。そこへ姉の林子が來ましたが、類子を見て、

『類さん、何を見てゐるの』

『姉さん御覽なさい、この花の美しいこと、花の中で一番薇薔が綺麗で御座いますねエ。』

『さうです、併し百合は眞白で、他に比較のない位潔い花です。』

と云ッてゐるところへ、一番下の妹濱子は、母樣と一緒にこゝへ來ましたが、これを聞いて、

『母樣、私は菫花がすき、薔薇も百合も綺麗ですが、菫花も綺麗です。』

これを聞いた母樣は、三人の姉妹にむかつて、

『お前がたの好な三つの花は、孰もみんな美麗な花で、どれがどれとも甲乙がないのです。丁度お前がたの心の德のやうなもので、例之て見れば暗青色の菫花は謙遜で、純白な百合は無邪氣とも云ふべく、又深紅の薔薇は、神樣や父母にむかッての愛の焰が燃る、その色と仝じやうであるのです。』

敎訓　謙遜と無邪氣と愛とは、人の德の最も美しい花である。

神奈川支部大會に臨みてよめる　評議員 中山幸子

うるはしくゑみつゝ國の爲なれと
　雨もいとはてつくす君かな

ふる雨もいとはてつくしたまへるに
　あふくもろ人かしこみにけり

雨ふりて地にかためつゝ愛國の
　こゝろます〳〵さかむなりけり

ふるとてもいかていとはむ國の爲め
　ますら男ならぬをみななれとも

ふる雨もいとはてつくすま心に
　そらもめくみてはれわたりけり

みやび會員詞藻

、、、寫眞の事に付き述懷　岡山縣 佐藤ふさ子

愛國婦人會は萬事しつぽくを尙ばるゝよし、兼て聞き居たりしが、愛國婦人新聞附錄に添へし寫眞版を拜し奉つれば、中々の美服、隨分〳〵程々の御よそほひ、さすがに立派の上々樣方と思へば、恐れ入るより外なき事。其寫しえをかけ地になりと仕立上げんと思ひし折から、さる僧侶に見せまゐらせし處、大きなる幀面の如きものをいたしきてこれにはりておけばと、なぞかけられて、しばらくの間考へしのち、其の寺に寶物として納め奉ぜん、これなひめ置きて世の人等に拜見をゆるさせ給へ、この地に婦人會出來しなば見せしめんとて話とゝのひぬ。よりて之を和尙にまかせなしき寫眞を寶物として奉納いたしたり。一寸うつしゑ奉納の始末を記す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

家事衛生

動靜 睡眠の時間は、普通大人は六時間にて足る、されども身體の虚弱なる者は、多く睡眠すべし、又小兒は發育しつゝある者なれば、多く睡眠すると必要なり、殊に哺乳兒には、哺乳時間の外、悉く睡眠せしむべし、學齡兒にても十時間は睡眠せしめざるべからず、而して老人は睡眠の少なきものなれども、長く褥中に在りて休息するを可とす、人若し睡眠前に飲食するか、或は甚しく神經を刺戟して眠ると能はざる時、漸くにして眠に就くも、絶えず夢幻の爲に妨げらるべし、夢は半睡半醒の有樣にて、安眠に非ず、故に斯る場合は眞に身心を休息すると能はざるものと知るべし、生理學上の試驗に據るに、眞の熟睡は就睡後二三時間にて、疲勞回復の大部は此時に果すなり、其の以上は眠淺くして醒易し、是れ竊盜などの寢入端に乘する所以なり、若し安眠すると能はざる場合には、先づ飲食を節制し、運動不足なきかを顧るべし、何れも適度なるに尚ほ治せざる時は、醫師の診斷を請ふべし、決して酒の勢にて睡らんとするなど手療治に出づべからず。

休息 休息時間には愉快に談話し、茶、煙草等にて欝を霽し、音樂、書畫にて耳目を樂ましむるを可とす、平生主として腦を使用する人は、空氣の新しき野外に出でゝ散歩し、或は體操乘馬等可なるべし、歐米の風に倣つて、日曜日を休むは衞生上嘉すべき事なり、されども土曜日を半休日とするは必要なきが如し、同じく半休日を置くならば兵員の如く水曜日にする方可ならん、昔より我國に用ゐる三日の休みは、衞生上日の分配惡し。

沐浴 沐浴は勞働して疲れたる時、之を回復するに最も適當なり、啻に汗垢等を洗去り、身躰を淸潔にするのみならず、筋力、又は腦に集れる血を皮膚に送り、大に愉快を覺えしめ、睡眠を促すなり昔より宿屋に入浴の用意ある、又勞働者の每夕業を終へて後入浴する、共に衞生上道理ある事にて、好き習慣なり、入浴の際、手拭、垢摩、毛刷、海綿など用ゐて、皮膚を摩擦するは、衞生上最も善し、又皮膚に脂肪の積れるを洗ふに、從來糠、又は洗粉を用ゐしが、近來は石鹼を用ゐるに至れり、石鹼は目に入りて痛みを感じ、嘗めて舌のひりつくは、人體を洗ふに適せず、別して小兒に害あり、其の香氣は種々あれども、別に利害なし、歐洲人は好みて微温湯に浴すれども、我國の家屋は構造異なるが故に、是非とも湯の温度を高めざるべからず、乃ち攝氏四十度(華氏百四度)位ならでは、湯冷する虞あり、されども餘り熱きは、固より害あり、熱き湯に暫時入るは、低温の湯に長時間入るに劣れり、又同温度の湯にても、湯の嵩多きときは温量多きを以て、身躰を温むると容易なり、故に小さき据風呂は、洗湯に若かず、浴後尚ほ身躰に濡ひある時、寒風に當るは宜しからず又冷水摩擦、或は冷水を注ぎかくるは、皮膚を強壯にし、能く寒冷に耐ふるの效あり、是れは啻に冷水にて輕く拭き、又は冷水を注ぎかくるだけにては足らず、皮膚の赤色を帶ぶるまで摩るを宜しとす、海水浴も亦皮膚を強固にする效あり。

總菜日記

各地會員の方々が、實際に用ゐ居らるゝ飲食物の料理を、五日間なり七日間なり、日記に認めて本所へ送付あらんとを希ふ。相互の參考となり、いと興味多かるべし。玆に先づ一記者が實行せし所をかゝげて、其獻付け方を示す。

	朝	晝	夜	一人前代價
水曜	味噌汁 若芽 雪煮 但おろし大根 香物 大坂漬	鹽秋刀魚 やきもの 香物 小蕪糠漬	鯛 煮肴 香物 同上	拾七錢
木曜	味噌汁 采の目豆腐 香物 大根糠漬	西別鹽引鮭 やきもの 香物 同上	酢煎卵の花 但しシコと生姜とを入れる 香物 唐菜鹽壓	拾錢
金曜	味噌汁 小蕪 香物 唐菜鹽壓	鰯 鹽燒 香物 同上	大和シウチ 但し牛肉、大根、人參、葱等を清汁にして葛を引く 香物 大坂漬	拾五錢
土曜	味噌汁 葱 香物 大坂漬 茄子辛漬	わらさ てり燒 香物 同上	(蛤むきみ 葱清汁) (大根八頭 煮づけ) 香物 大根糠漬	拾貳錢
日曜	味噌汁 せん大根 香物 大根糠漬	まぐろ さしみ 香物 大根糠漬	薩摩汁 牛肉、大根、人參、葱、里芋、燒豆腐 柚子大根 香物 同上	廿六錢
月曜	味噌汁 蜆 香物 唐菜漬	牛肉 煮びたし 香物 同上	ちり 豆腐 鱈 菠薐草 香物 同上	拾五錢
火曜	味噌汁 薩摩芋 采の目 菠薐草 したしもの 香物 大坂漬	平 めじ 鹽燒 香物 同上	煮しめ 烏賊 燒豆腐 八頭 香物 同上	拾五錢
			平均	拾五錢七厘

附記　飯は每日朝炊にて、晝と夜とは冷飯なり、尤も飯櫃入を用ゐ、成だけさめざらん樣に注意せり、右惣菜中、雪煮とチリと柚子大根とは、本紙に出でたる特殊料理にて、大和シチウは田邊和氣子刀自遺稿にて敎はりしなり、

◎各地特種の料理

(六三) 橋立漬　京都府宮津町　林　文子

一二寸の魚小鯛を料理して、そのまゝ薄鹽にて二三時間おもしをかけ置き、別に沸騰させおきて冷ましたる酢を之に注ぎ、四五日間經ちて食すれば骨軟くして味よく、殊に酒の下物によろし。

(六四) ちり　岡山縣　佐藤ふさ子報

此料理は湯揚とも稱へ、湯豆腐のやゝ念の入ッたものて御座います。其大體を申せば、平鍋に湯を煮立たせ豆腐と靑菜と魚肉とを入れて湯煮にし杓子ですくひあげて皿に盛り、醬油と木酢とをかけて食べるので御座います。是には飯の菜よりも酒の下物に適當てす。其手續を少々委しく申しますと、左の通りてす。先つ豆腐を一寸四方位(厚みは少々薄く)に切りて水を入れたる鉢に入れ魚は二枚に卸して、是も一寸四方許に切りたると、靑菜の好き程の長さに切りたるとを大皿に盛り七厘に火をおこし、平鍋に湯を入れて掛け、いづれも酒席に持出し、さて鍋に少しづゝ魚と豆腐と菜とを入れ、一煮したる時、孔の數々あいた杓子にて抄ひ、水氣をしぼりて皿に盛り、醬油をかけ又木酢即ち柚か橙かを輪切にしたるを搾りかけて食べますのてす。寒い頃に殊に適當な料理てす。魚類は虎魚・鯒・鯔などが宜いやうに思ひます。鯛・鱸は勿論宜しう御座いますが、是れは此料理に使ふよりも、吸物などに作る方得策かと思ひます。靑菜は春菊・芹・菠薐草・三葉など一煮して食べられる物が適當てす。此料理は私が嘗て伯母から敎はりまして實行して居りますが、誠に輕便て結構てす。靑菜を用ゐず、豆腐と魚だけても宜しく、又好みによりては木酢を用ゐず、醬油に鰹節をけづり入れ、猪口に入れて平鍋の一隅に据ゑて、溫めて用ゐる仕方もあるさうてす。此料理の名を「ちり」と稱するは魚肉が煮えてチリ〳〵になるから云ふとも申します、確とした說は存じません。又何れの地の特殊であるかも存じませんが、中國四國九州邊て主に行はれ、關東東北では餘り行はれないと聞及んて居ります。

(六五) 日向飯　山口縣　會員報知

先づ鯛を薄く刺身につくり、醬油に暫くつけ、茶碗に熱き飯を盛りたる上に四五切載せ、少々醬油をたらし、其上より煮立ち居る茶をかけてまぜかへし、茶碗に暫く蓋をし、二三分間經ちて蓋を取り、紫蘇の實の鹽漬など藥味にして食するなり、刺身はざッと煮え居るなり。好む人は此上なき美味なりと云ふ。又好みに由りては、鷄卵をわりて能まぜ、刺身を漬置き、それを飯の上に載せるもあり。唯衞生上茶漬飯はよろしからずといへば、粥を煮て其熱きうちに、刺身を入るゝもあり、粥の方、刺身の煮え方殊に宜し。此料理は普通鯛茶と稱ふれども、日向飯といふが本名なりとか聞きぬ、或は日向國の特殊料理かとも思ふまゝ報らせまゐらするなり。鯛茶といへど、鯛に限らず、畢竟煮て味ひの好き、脂肪のしつこからぬ魚を刺身ならば、差支なき樣なり。故に鮪松魚などの刺身はよろしからず。

(六六) 香茸のごあへ　岡山縣川上郡　山間の會員

香茸の生なるをゆでてあくをぬき、酒と糖砂と醬油とにて常の煮物よりは少しからき程に煮つめおき、大豆の稍靑きをとりて莢のまゝにゆでて、一々皮を去り、擂鉢にてよくすりて砂糖を少しあしらひ、前に煮おきたる香茸をたてによき程に切りてあへるなり。

こは特殊の料理方にもあるまじけれど、時節から思ひつきしまゝを記しぬ。

◎歌御會、　三十七年歌御會始御題は「巖上松」と仰出され詠進は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎評議員會　十二月中の評議員會日割は左の如し

十二月二日（第一水曜日）第二の組
十二月九日（第二水曜日）第三の組
十二月十六日（第三水曜日）第四の組
十二月廿三日（第四水曜日）第五の組

◎神奈川支部總會　同總會に於ける、幹事長の答辭を得たれば左に掲ぐ、

答辭

こゝに愛國婦人會神奈川縣支部發會の式を行ひ兼て第一回總會を開くに當り、畏くも總裁殿下親しく臨ませ給ふだに、無上の光榮なるを、御懇なる御諭旨をさへ賜はり、いとも喜びに堪へざるなり。そも當支部員は、御國の爲め名譽の死を遂げられたる、軍人の遺族を救はんとの旨趣を賛し、微力をも顧みず、いさゝか慈仁の心もて、組立しも、日尚淺くして、未だ其功を奏するに遑あらず、いたく慚らひはべり奉る。今より御諭旨を奉體し、吾等が心力のあらん限りは、ます〳〵つとめて當支部の擴張を計り、好果を結びもちて盛旨に酬はんことを誓ひ、こゝに會員に代りて謹みて答辭を奉るになん。

愛國婦人會神奈川縣支部
幹事長　岡布貞子

◎有功章贈與　左の人々は本會へ金品を寄贈せられ、又は功勞あるにより、總裁殿下より有功章を賜はりたり

七寶金色製有功章　神奈川縣支部副幹事　谷口みよ子
同　神奈川縣幹事　石川たき子
同　同　渡邊たま子
同　同　淺田久乃子
同　同　福井くに子
同　同　尾崎もと子
同　同　淺岡たま子
七寶銀色製有功章　東京　大谷雄治
同　大阪幹事　阪田峯
同　熊本　東新次郎
同　熊本幹事　阪井守衛子
同　香川　片岡正倫
同　宮城幹事　岩淵つなよ子
同　北海道　西久子
同　三重　二井利三郎
同　神奈川　日比知周
同　東京幹事　杉本みな
以上功勞により贈與
七寶銀色製有功章　評議員　伊東美津子
同　同　柳澤秀子
同　同　清浦錬子
以上金品寄付により贈與

◎評議員會の景況　十一月十八日第五の組、評議員會出席者は、谷理事始め評議員には岡部埏子、神山万佐子、阪井春子、佐藤猶子、澁谷ちか子、中山幸子、の諸氏及石川支部より富士澤ふみ子出席せられ擴張上の打合を爲せり。

◎熊本支部の例會　本月九日赤十字社支部にて例會を開く。當日は第一席に南木大憲師の國家と女子と云ふ題にて講話あり、軍隊布教師小林榮運師は日清戰役從軍感話あり、非常に盛會なりしよし。

◎堀内相談役の書信　大演習舉行地へ參謀本部より出張せし、同氏は、演習地先きより左の書面を佐藤主事宛にて送り越されたり。

加古川、土山、姫路至る所に婦人の奉送迎せらるゝもの〃中に、一層數多の我が愛國婦人會員の列せらるゝを見る心地よさ、何共言へすん。私は至る所に「愛國婦人會員位置」なる建札あり、其左右に多くの御婦人方列せらるゝに當り、其前を通行する時は不覺敬意を表する心が生じ申候。別紙姫路の新聞切拔き御參考まで相送り申ん。

◎愛國婦人會拜觀心得　常市に於ける愛國婦人會幹事部より大觀兵式拜觀心得を左の通り相定め昨日同會員に通知したり

△拜觀心得　拜觀の場所は城北練兵場入口軍人橋と通稱する白ペンキ塗の大橋を渡り橋詰より左に折れて降り行く時は白木の建札に愛國婦人會員と記したる建札を建てあるにつき其場所に集ること△陪觀券は必ず持參して式場入口にて憲兵に示さる事△徽章は必ず左胸部に佩用すること△式場に至らるゝは午前七時迄のこと△服裝は白襟紋付として幼年者は不敬に渉らざる服裝すること△陪觀場所に於ては充分順序正しく位置し決して亂雜ならざること△奉送心得　奉送の場所は城南練兵場東南隅（第八旅團司令部の前）土壘の中にして茲には海員救濟會員と並びて愛國婦人會の建札あり其場所に集りのこと△其他の心得方は大觀兵式拜觀の心得三項五項六項の通りとし時間は不明なれども多分午後なり

◎奧村刀自遊説日誌

十月十五日　靜岡市寶台院に於て開會、傍聽者五百余名、長島市長開會の趣旨を陳べらる、即時入會三十餘名、來會者は市内の有志婦人なりし。

十月十六日　靜岡市を去る約三里、安部郡清水町に向ふ、鈴木長郎にて饗食の饗應を受け、三保松原御穗神社に詣て、天の羽衣の實物を拜覩し、午後六時より當町實相寺にて開演す、來聽者約六百名、小川郡長紹介の勞をとらる。

十月十七日　本日靜岡市に歸り、赤十字社支部樓上に於て開かれし、同縣幹部會に臨席す、當日は山田幹事長以下二十六名の幹事出席、新任幹事の披露後、協議會を閉ち、後ち、刀自慰勞の爲め茶話會に移り、一同撮影して散會したり。

十月十八日　靜岡市出發、名古屋に向う、靜岡驛まで幹事長以下一同見送を受け、午後二時名古屋市に着、後藤副幹事長以下の出迎を受け當地に一泊す。

十月十九日　早朝深野知事を訪問し、午前八時出發、福井支部に向かう、午後四時着、伊澤副幹事長以下の出迎を受け、同町名古屋に投宿す、阪本知事、紳西參事官、東郷市長の來訪に接す、

十月二十日　午前十時孝顯寺に於て開會、當地の重なる婦人のみ出席せられ、阪本知事も刀自演説後一場の賛成演説あり、東郷市長始め、縣廳幹非常に盡力せらる、午後二時より四本願寺別院に於て再び開演す、來聽者約五百余名、伊澤副幹事長開會の主旨を陳べらる、即時入會員二十一名、外に寄付申込者數名ありたり。

◎愛國婦人會會員現在數表

卅六年八月末日調

支部名	特別會員	通常會員	計
北海道	二七四	七四一	一、〇二五
○東京	一、八五一	二、〇七〇	三、九二一
大坂	四九五	一、六七二	二、一六七
△京都	三七六	一、六五三	二、〇二九
神奈川	六四〇	二、四〇〇	三、〇四〇
△兵庫	三三九	一、八五五	二、一九四
△長崎	一〇三	二四六	三四九
新潟	三三六	一、四一九	一、七五五
埼玉	一六三	一、二〇四	一、三六七
群馬	四五	三二八	三七三
千葉	五五	七九八	八五三
茨城	三一	七五	一〇六
○栃木	六九	四〇九	四七八
奈良	一二五	五八八	七一三
三重	二五	四〇七	四三二
愛知	二〇二	一、六五九	一、八六一
靜岡	五〇	二〇五	二五五
山梨	六一	三〇〇	三六一
滋賀	五四	三四八	四〇二
岐阜	五九	三二一	三八〇
長野	九五	六五四	七四九
△宮城	一四〇	三〇〇	四四〇
福島	四五	一三六	一八一
岩手	一五七	四二二	五七九
青森	三〇	八八	一一八
山形	三〇	一八〇	二一〇
秋田	六六	三〇六	三七二
福井	三五	[illegible]	[illegible]
石川	二三六	一、九五八	二、一九四
富山	一〇〇	六三八	七三八
鳥取	八二	五三六	六一八
島根	八二	二三六	三一八
△岡山	一四四	[illegible]	[illegible]
廣島	二六五	九六四	一、二二九
山口	三四	八五	一一九
○和歌山	二九	一〇六	一三五
德島	一六	一四六	一六二
香川	一六六	一、〇四七	一、二一三
愛媛	三三	五五一	五八四
高知	三〇	三九一	四二一
福岡	四七三	一、〇八五	一、五五八
大分	六一	一六九	二三〇
○佐賀	四九	二一四	二六三
熊本	四〇六	一、三〇二	一、七〇八
宮崎	二一	二三六	二五七
鹿兒島	一七〇	三七七	五四七
沖繩	｜	｜	｜
臺灣	一	｜	一
海外	一九	七	二六
合計	[illegible]	[illegible]	[illegible]

備考　△ハ七八兩月間ニ入會者ノ名簿未着ニ付六月末日調ノ人員ヲ掲ク
○ハ六月末日調及七八兩月間ノ入會者名簿未着ニ付本年五月末日調ノ人員ヲ掲ク

十月廿一日　縣立高等女學校に於て開演す、來會者には松平侯爵夫人始め、高等女學校職員生徒有志の男女凡そ八百余名、伊澤副幹事長開會の趣旨を述へらる、即時入會廿九名ありたり。

十月廿二日　午前八時出發、人車にて九里の行程を經て、大野郡大野町に向ふ、郡長、警察署長等の出迎を受け、午後二時半大野町俵屋に到着す。

十月廿三日　午後一時より眞宗大谷派最勝寺に於て開會す、傍聽者八百名、郡長三國貞五郎氏開會の趣旨を述へられ、當町婦人會役員諸氏大に盡力せらる、午後六時より同寺に於て再開、來聽者一千三百余名、流石大廣間の本堂も人を以つて充たされたり、午後九時まで講演す、即時入會者は十三名ありたり。

十月廿四日　午前九時出發、同郡勝山町に向ふ、勝山町長の出迎を受け、午前十一時到着、午後二時より高等小學校に於て開會す、三國郡長紹介の勞をとらる、聽衆約七百余名、即時入會者三十三名。

十月廿五日　午前八時三十分出發、福井市に歸る、里程七里余、午前十二時着名和屋に休憩す、午後二時より西本願寺別院に於て開會、傍聽者約二千名、會場に充溢し、入場拒絶せしもの其數知れず、伊澤副幹事長、開會の趣旨を述へられ、次に刀自二時間余の演説を爲し、一時休憩、其間に各幹事諸會員募集に着手せられ、即時入會申込者、特別二十八名、通常百三十八名、贊助員四拾五名を得たり。來會者の重なる人は、松平侯爵夫人、中野本山管長夫人等なりし。

十月廿六日　午前八時福井市出發、阪井郡三國町に向う、伊澤副幹事長以下停車場迄見送らる、九時半金澤驛に着、夫れより人車にて十一時三國町に着す、午後二時より高等小學校に於て開會す、傍聽者四百五十名余あり、並木郡長以下、專ら周旋の勞をとられたり、其結果會員六拾余名を得たり。

十月廿七日　午前十時三國町發、今立郡鯖江町に向う、途中福井驛通過の時、阪本同縣知事時間を計り、停車場まで出張し、種々演説上の注意を與へられたり。十二時二十分鯖江驛着、郡長近藤直一氏以下の出迎を受け、角屋旅館へ投す、午後二時より惜陰高等小學校に於て開會す、傍聽者約七百名即時入會者陸軍將校夫人二十五名、有志婦人二十四余名ありたり。

十月廿八日　鯖江發、南條郡武生町に向う、米庄旅舘投宿、午後二時より本派本願寺派陽願寺に於て開會す、傍聽者約一千名、郡長和田見龍氏開會の趣旨述べらる、即時入會數十名あり。

十月廿九日　武生町發、敦賀町に向う、米庄旅舘へ投ず、午后二時より高等小學校に於て開會、金谷郡長開會の趣旨を陳へられ、傍聽者陸軍々人始め二百余名、即時入會若干者ありたり。

十月卅日　敦賀發、福井驛に着、縣會議事堂構内に於て職員と共に撮影す、夫れより腕車にて阪井波寄に向う、午後三時成福寺に於て開會、並木郡長開會の趣旨を陳べられ、傍聽者約一千名、五時にて一席閉會し、七時より再會す、傍聽者約一千名、十時閉會す、五六十名入會者ありたり。

十月卅一日　成福寺發、全郡縣日に向う、途中刀自の乘車顚覆せしも、幸に負傷なし、十時稱名寺に着、十時半より十二時半迄講話す、傍聽二百余名、中にも坂本伊太郎氏親子の如きは、一層の盡力にて、入會者四十余名を勸誘せらる、午後より金澤町に向う、永宮寺に着、三時より開演、傍聽者五百名、即時入會五十三名、午後七時より再會講話せら度き旨申出られ、刀自は疲勞せるにも拘はらず、三度び開會、傍聽者四百名、午後十時閉會す

十一月一日　金津町發午前十一時丸岡驛着、午後一時より丸岡町正譽寺に於て開會す、並木郡長開會の趣旨を述へらる、傍聽者一千名、即時入會七十二名あり、午後四時發、福井市に歸り、同市高等女學校に於て開演す、女學生約三百名あり、市内有志婦人百五十名程傍聽せらる。

十一月二日　福井市專照寺に於て開會、傍聽者三百余名、伊澤副幹事長以下大に盡力せらる、即時入會者四十二名ありたり。

十一月三日　福井發、敦賀に向ふ、午前十一時着、直ちに若狹三方郡三方に到る筈の處、敦賀郡長の懇望により、當地にて一席講話することとなり、午後二時より俄かに準備の上、泖蓮寺に於て開會す、傍聽者六百名、即時入會者七十三名ありたり。

十一月四日　敦賀發、若狹郡三方に向ふ、十一時三十分三方に着、午後七時より臥龍院に於て開會、藤野幹事開會の主旨を陳べらる、傍聽者六百名、即時入會者二十名ありたり。

十一月五日　午前八時三方發、遠敷郡小濱町に向う、午後〇時三十分着、同町男山鑑演會堂に於て開會す、傍聽者三百名、酒井折井兩幹事開會の主旨を述へらる、郡長山中氏等大に盡力せられ、即時入會者數十名あり、本日を以て福井縣の遊説を終了し、之より湖水を渡り、大津に出て、京都に向う筈なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮廷録事

●皇后宮美術展覽會行啓　皇后陛下は去にし十八日午前十時三十分御出門千種權典侍の御陪乘、香川太夫、園權典侍、津守權掌侍、堀川命婦其他の供奉にて上野美術協會へ行啓列品館御巡覽午後三時過ぎ還啓あらせられたり、御巡覽中屢々御下問の儀あり下條幹事一々說明申し上又御晝餐後の御休憩中左の十二名が十二ケ月の圖一葉宛揮毫するを御覽あり總て御持歸りになれり

下條　正雄　川端　玉章　野口　小蘋　佐久間鐵園
熊谷　直彥　荒木　寛畝　小堀　鞆音　大出　東皐
高橋　玉淵　高島　北海　川村　雨谷　尾形　月耕

又御土產として協會へ金三百圓席畫揮毫の畫家へ若干圓御下賜相成り列品數十點御買上になれり

雜報

●赤坂離宮の菊　松柏の間紅葉の點綴する美觀は中すもおろかなり菊花の殊に見事なるは赤城の一千百五十輪、金鷹の一千百輪、白髮の一は六百五十輪、一は七百六十輪、朝日山の五百輪、雲雀の床の七百八十輪等なり

●帝國敎育會の公益音樂會　同書籍館擴張補助の爲め多數貴婦人の發起を以て來る二十八、二十九の兩日音樂學校に開く音樂會は、從來音樂會の二大團體として自ら別派の姿なりし式部職雅樂部と東京音樂學校とが協同して雙方より各第一流の演奏者を出せしのみならず、雅樂部のヴインセント氏は是迄公開の場所にて演奏せしことなければ今回は氏の妙技を我樂界に披露する初舞臺に均しく、且つ新歸朝者たる幸田幸子孃は公開の場所にては今回が始めての演奏なれば何れも我が樂界の注意を惹くものあり尙和樂に於ても各流の名人が打揃ふて出演する由

●白菊音樂會　同會は東京唱歌學校那須祐直、酒井將軍氏等發起となりて北海道婦人同志會の爲め去る廿一日神田靑年會館にひらけり此の催ほしは遠く北海道より東都に出て、修學せんとする婦女子等の爲め相當の監督所を設け、次て機關雜誌をもあらはし同婦人會の根城をいよいよ固からしめ近き將來に賢母、良妻を作らしむる趣旨なりときけり

●橫濱慈善音樂會　明治女學校監督の下に立てる、女子實學園設立基本金募集の爲め、去にし廿三日廿四日兩日同市羽衣座に於て開會せしよし。

●北海道土人慈善會　昨秋松前子爵夫人の催しにかゝり、北海道土人敎育會の爲めに、音樂會を開かれ、其の結果により校舍建築中なりしが、今般竣功せしにつき、該維持費の爲め、去にし廿三日九段公園能樂堂に於て、慈善能舉行されたるよし。

●大日本婦人敎育會總會　去にし廿一日早稻田大隈伯爵庭園に於て開會、當日は天氣もよく、來會者非常に多くして、大隈伯爵の演說もあり、餘興には軍樂隊等ありて、頗る盛會なりし。

●家庭革新演說會　同會は本月十四日神田靑年會館に於て開會、問題が問題だけに婦人の傍聽者極めて多かりし。當日出席の辨士は渡邊子爵、下田歌子女史、田川大吉郎の三氏にして、渡邊下田二氏の演說は本紙に揭ぐる如し。

●月曜會　內外貴婦人交際會の例會月曜會は、去にし九日鍋島侯爵邸に於て開會別項記載の大隈伯爵の演說ありたり。

●四恩瓜生會秋季大會　同會は去にし十五日正午より本鄕駒込團子阪上須藤氏庭園にて秋季大會並に園遊會を開き南條博士、棚橋絢子女史等の演說ありたり。

●華族女學校運動會　去にし十九日午前九時より第十七回秋季運動會を催し常宮周宮兩內親王東伏見宮妃華頂宮妃梨本宮妃各殿下の御臨場德川侯以下三百餘名の來賓あり頗る盛會にて午後三時散會せり

●料理復習會と日曜會　日本橋平松町なる赤堀料理敎場にては龜井牧子伊藤德子兩名發起して料理の復習會を開くことに決し第一回は本月廿六日第二回は十二月七日第三回は來年一月廿八日と定まれり又同敎場にては各學校女敎員及び女生徒等の料理を研究せんとする者の便宜によりて來月より日曜日の講習を始むる筈なり

●弘道會女子部常集會　同會は本月十五日麴町區飯田町の同會に於て開會し、小川直子刀自の明倫歌集の講義及說話、棚橋絢子刀自の小學講義及訓話等ありて、十一時に閉會したりき。同日は會長谷子爵同令夫人同伴にて出席せられ、中々盛なりき。

●裁縫科本試驗　文部省敎員檢定試驗の受驗者は、七十四名あり、左の問題について答案を作れとありしよし。

一、左の敎材に就き敎授案を調製すべし
但し學年は隨意に選定すべし
敎材　本裁袷羽織男物標附け方（授業時間二時間）
二、十布遣袷物表裏の裁ち方を圖解し之れに各部の名稱寸方を記入し且つ積り方の算法をも詳記すべし
但し用布は表仙臺平裏甲斐絹とす
三、東コート（女物）の普通仕立上寸法及び縫ひ方順序を明記すべし
（右三時間）

●新橋驛の女子出札實行　新橋停車場の如き大停車場の出札係は餘程の敏腕を要すると共に乘客に對し如何に忙しき際にても乘客へ劍突といふ景物を添えて出すやうの事ありては却つて之が爲め出札事務に非常の妨害を爲す事なれば試に女子を採用しては如何との說鐵道作業局部內に起り過日來四名の女子をして事務を練習せしめつゝありしが成績存外良好なるより愈々右四名の女子をして出札せしめつゝありといふ

●保護奬勵すべき產業　全國商業會議所間の問題となれる保護政策に依り保護奬勵すべき產業の重なるもの及び其最近一ケ年の輸出入額左の如し

○輸出品

製茶	一千萬圓	樟腦及樟腦油	三百五十萬圓
百合根	二十四萬圓	落花生豆	三十五萬圓
麥稈眞田	三百萬圓	生絲類 羽二重甲斐絹	八千二百萬圓
紡績絲	二千萬圓	手巾	三千萬圓
綿織物	六百萬圓	石鹼	二十萬圓
マッチ	八百萬圓	麥酒	五十萬圓
紙卷煙草	二百萬圓	鈕釦	三十七萬圓
ブラシ	六十二萬圓	洋傘	百萬圓
扇子團扇	八十萬圓	花筵	五百五十萬圓
硝子類	八十三萬圓		

○輸入品

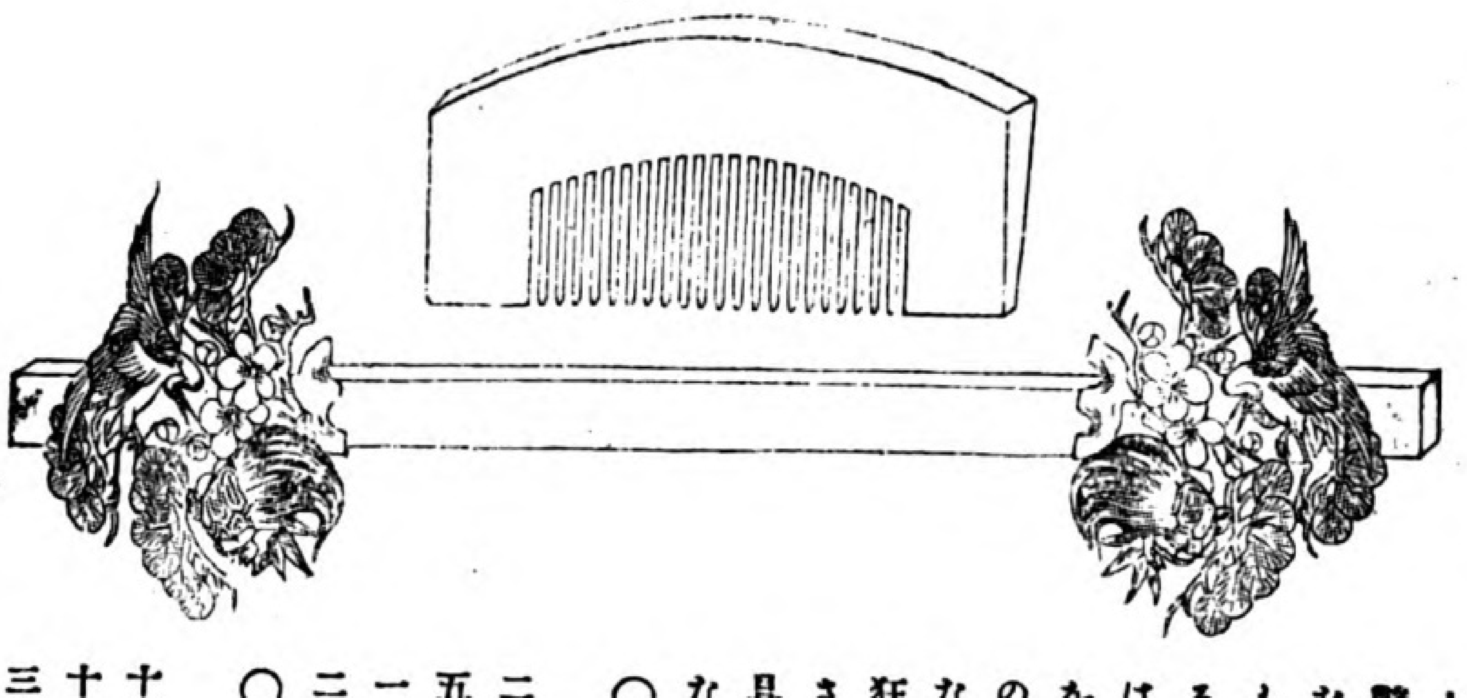
材木及板	五十四萬圓	麥芽	七十六萬圓
油糟	千十四萬圓	穀類	千九百萬圓
諸機械類	千二百萬圓	鐵道用車	二百五十萬圓
汽船	百四十萬圓	自轉車	百萬圓
砂糖	千五百萬圓	石油	千六百萬圓
鐵設類	五十萬圓	瓦斯絲	三四百萬圓
綿織物	千八百萬圓	毛織物	千七百萬圓
製紙	三百七十萬圓	ポンプ	五十七萬圓
酒類	百萬圓	帽子	二十三萬圓
板硝子	百八十萬圓	麻類	二百萬圓
綱索	三十萬圓		

●橫須賀協濟會の設立　橫須賀鎭守府の河野主計中監福島大主計及び同區裁判所の馬淵判事は下等勞働者より上文武高等官等の賃銀又は俸給を以て生活せるものを結合して目下歐米に於て最も巧妙なる貯金法として盛に流行せる購買組合を創立せんとて熱心盡力中なりしが非常に贊成者多く去十月一日題號の如き組合設立の認可を得來十二月一日より愈開業の運びとなれり農商務省の調査によれば去八月末現存の產業組合は總計七百四十一に上りしも賃銀又は俸給等によりて生活するものの結合によりて成立せる組合は一つも無く其之れ有るは實に此組合を以て嚆矢とすと云ふ定款によれば本會は一方現金を以て組合員に米鹽薪炭味噌醬油其等の日用品を廉價に供給すると同時に一方剩餘金を準備金及び特別積金として漸次貯蓄し尙餘りあれば購買高の多少に應じて之を組合員に拂戾すの仕組にして物品の配達區域は當分橫須賀町及豐島町に限るとせり現在會員の數は三百五十餘名なるが內百四五十名は比較的少額の俸給及び賃錢にて衣食せるものにて此等組合の便宜を計り一口の出資額十圓に對する第一回の拂込を一圓以上としたるに拂込額意外に多く既に九百圓許りとなりたれば開業には何等の差支も無かるべしと兎に角近頃の美舉なりと云ふべし

●林、園田兩氏の結婚披露　園田幸吉氏次女今般林子爵（友康）嫡孫博太郎氏と結婚の約成たるを以て此の程帝國ホテルに於いて披露の宴を催したり來會者小村外相田中宮相鍋島蜂須賀黑田松方井上等の侯伯を始め列國公使及來遊中の印度王族等內外の紳士淑女無慮一千餘名園田林兩家の家族大廣間に於て一々來賓に接し此間樂隊樂を奏し喨々の響き洋々絶えず四時半より食堂を開き立食の饗應あり來賓各歡を盡くし五時頃散會近來稀に見るの盛儀なりき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

儀式用御櫛笄



上圖櫛笄の材料は鼈甲を以て類一となせど鼈甲の中にも品質の佳からざる物少からず此品は鼈甲中の最良質を精選して良き工の手に成りたる物なれば透明にして狂を生ぜず浮を出さず幾久しく御道具となるへき逸品なり

○本甲製　一組價
二十五圓　三十五圓
五十圓　七十五圓
一百圓　百五十圓
二百圓　二百五十圓

○甲張製　一組價
十圓　十二圓　十五圓
十八圓　廿圓　廿五圓
三十圓　三十五圓

東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
松田幸治郎
特電話新橋五五一番

婦人ふるちの藥

定價一貼五錢三貼十四錢五貼廿三錢七貼三十二錢
一此藥劑は婦人血の道一切の藥にして清血を補ひ古血をめぐらすとかんようにして少しも脾胃にさわるとなく血を下すにてはなく血をみちびき通ずる藥なり第一月々めぐり少き婦人はたッぷりと見るなり數年古血滯りある婦人は其のふるちのかたまり殘らずつうずるなり◉○南まけづつう目まひによし○ふるちとゝこほり○ながち○しらち○手あしゝびれ○血しやく○ひゑるときさしこみいたむに功あり○むねこしいたみ○つぎむしによし○さんごわとはらのいたみはいかほどつよきいたみにても一ト包にて功あり○さんごわるちのとどこほりに用ひて功あり○猶能書にくわしくしるす

東京市本所區東兩國横綱町一丁目
本家製藥所　歯磨店　伊勢吉本店
（電話浪花二七五八）

本店　東京日本橋區長谷川町貳番地
卸部　美濃磯本店
電話浪花二八五九
電略ミイツ

小賣部
本郷區本郷五丁目上五　電話下谷二四一九
美濃磯本郷支店
淺草諏訪町廿貳
美濃磯淺草支店
芝區新櫻田町九番地
(美)小田商店
牛込神樂坂町二百八
(内)伊澤商店
四ツ谷傳馬町一丁目
(内)伊澤支店

目半ゑり帯揚

類◉大見切組合せゑり◉縮緬絹毛織肩掛◉紋附おこそ頭巾◉前掛◉袋織帯揚◉旭織下締◉しごき◉絞り襟飾

新製まげ入紀念形　本年受賞紀念として近日賣出し

新橋竹川町十二番地　電話新二〇二七
ゑり治商店

●水原産科婦人病院

○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千七百〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

婦人最良藥

子宮病血の道　産前、産後の諸症にて種々の藥を用ゐて其効なく久しく病床に苦しむ人は本劑を試みよ
●如何なる難病も二三週間に全治す

●詳しき効能は大廣告の時御注目ありたし

（定價　一日七錢五厘、三日廿錢、一週四十五錢
二週八十五錢、三廻り一圓二十五錢）

●本舗へ御注文の方は病人の容躰御申込あれ

本舗　東京日本橋通四丁目　津村順天堂
大阪堺筋鹽町北入　津村順天堂

中將湯は全國各藥店にあり

專賣特許竈

日本橋區蠣殼町二丁目（電話浪花壹七七番）
製造發賣元　名和商店
神田區松永町十八
和泉橋通　名和支店

全國各學校徽章賞牌ハ弊店ノ獨專業ニ有之候　價格表ハ御報次第呈送ス

日本帝國徽章商會

東京市麹町區飯田町三丁目
電話番町八百五十七番

醫院案内

婦人科産科榊病院

院長　醫學博士　榊順次郎　每日午前診療
副院長　醫學士　久保德太郎　每日夕刻診療
東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）

耳鼻咽喉科院

院長　ドクトル　山上兼輔　診療每日午前
四谷區本村町三十七番地
電話番町七三〇（士官學校前）

東京小兒科院

院長　醫學博士　瀨川昌耆
駿河臺西紅梅町（電話本局一九五五）

瘰癧◎◎最新療法

切開ヲ要セス根治ス
○○心臓病
○○脚氣病
◎◎專門
千葉内科院
神田區三崎町三ノ一（西通リ二十五）

内外科泌尿生殖器科

醫學博士　佐藤進
醫學士　佐藤佐
同　佐藤恒久
同　佐藤達次郎
醫學博士　田中苗太郎
醫學士　阿久津三郎
醫學士　吉井明七郎
醫局員　菅野徹三
同　前田利雄
同　笠間大作

各科專門ノ醫士分擔シテ診療ニ從事ス
每週月水金午後一時ヨリ貧困者ノ爲メ施療部ヲ設ク

本郷區湯島五丁目お茶ノ水
順天堂醫院
電話本局三六九番

診療

院長出診時土曜日午後、入院診斷之上隨時應需

内外科眼産婦人科耳鼻咽喉科皮膚病梅毒痳病
外來入院隨時
深川平久町角
深川　養生病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

◎東京堂　神田區表神保町三番地

◎東海堂　京橋區銀座四丁目

海軍大藥劑士 小林增作君著 (定價卅八錢 郵送料六錢)

通俗 料理化學

本書は家庭に於て實際に應用せられつゝある日常の飲食物に就き化學の原理により最も通俗簡明に記述したるもの、其措辭は溫雅、其所說は叮嚀、彼の無味乾燥なる普通化學書の式を襲ひたるものとは固より其撰を異にす。家庭の好讀本、萬人の必讀書とは是れ。

(本書內容)

飲食物の榮養價▲體質と飲食物との關係▲保健食料▲臺所の經濟▲飲食の時刻▲火加減▲水加減▲飲食物の選び方▲食物消化劑の價値▲飲喰合せ▲常食物品の異成分▲中毒の手當て▲飲食の簡易試驗法▲飲食物の生產地と良否の鑑別並に其應用▲嗜好品の成分及其良否鑑別法▲料理の方法と食物の成分變化との關係▲料理屋、寄宿舍、軍隊等の賄所▲飲食考▲食用器具の良否、洗ひ方並に簡易試驗法

橫井玉子君著 家庭料理法 (三版) 並製四拾五錢 上製六拾錢 郵稅各八錢

●發兌元　東京神田裏神保町　冨山房

女子高等師範學校教授 黑田定治先生校閱
學習院教授英和女學校講師 長谷川乙彥先生著

新編 女子用教育學

◎全壹冊正價五十五錢 郵稅六錢

●本書は文部省所定の教授要目に選び編纂したるものにして高等女學校、女子師範學校其他女子の教科用講習用として最も適切なる良書なり。

●本書の特色は重きを家庭及び幼稚園教育の理論方法に置きたるにあり。

●本書は又家庭教育の天職を帶べる母たる人の必ず一讀すべき良書なり

發兌元　東京京橋區弓町　松邑三松堂

東海散士著

日露戰爭 羽川六郎

東亞地圖挿入

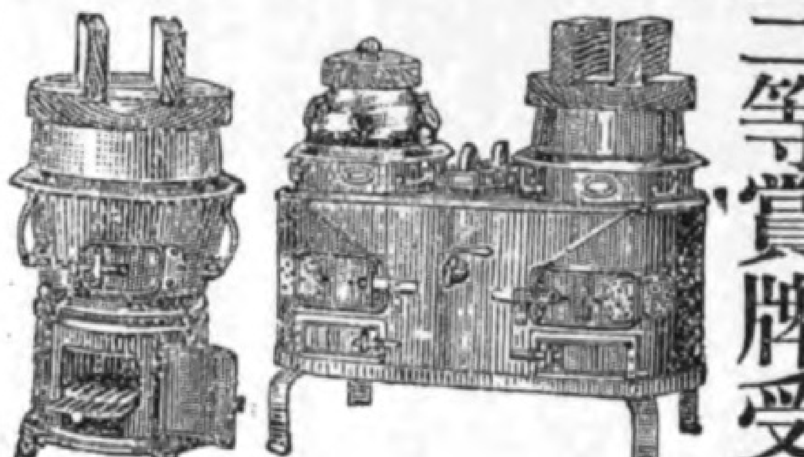
●全壹冊定價金九十五錢●郵稅金拾二錢

日露の關係は我神州未曾有の國難なり今は實に戞然一聲砲火將に爆發せんとする瞬間に在り唯其れ海戰は如何、陸戰は如何、露國及列強の狀勢は如何、抑勝敗の決は果して如何、實に此書は小說にして小說にあらず、實傳にして實傳にあらず、東海散士が縱橫なる文藻を確實なる事實に寓し、平易に明暢に此問題を解決して我國民諸君の一粲を博せんとするものなり

發兌元　東京本鄕四丁目八　有朋館

第五回內國博覽會三等賞牌受領　薪炭兩用　專賣特許

富貴竈



●本器は世間在來改良竈の不備の點を悉く完備したる構造にして製作の精良堅固なることと無比なり眞價は實驗にて知り給ふべし

●說明書御一報次第進呈す

●販賣店は全國到る所にあり

アルミニユーム製器具

本器は高尙優美にして衞生に適し經濟なる美術的器具なり

此外舶來琺瑯引器具及び鐵瓶湯沸銅鐵物類

東京淺草茅町淺草橋際(特電話下谷一九二三)

發賣元　阿部彥四郎商店

代理店　橫濱市吉田町一丁目　內田甚兵衞

日本室用 木炭焚

暖爐

烟突不要

特長◎此暖爐ガ他式ニ優リ著ク有益ノ長所アルハ岩佐侍醫岡村醫學博士栗木醫學博士桐淵醫學博士足立軍醫監川村大軍醫以下諸大方醫ガ御賞用アルニテ知ル可ク◎燒燃ヨリ起ル有害瓦斯ノ發生ヲ防止シ◎室內空氣ノ乾濕ヲ適度ニ自調シ◎小量ノ炭火ニテ永ク室內全體ヲ平均ニ快ク恰モ日光ニ溫マル如ク溫暖ニシ溫度上昇自在ニ移動自在ニ火ノ用心極テ安全ニ形狀優美堅固等他ニ類無キ特長アルヲ以テ◎日本赤十字社東京府立病院宮城縣立病院以下各府縣立私立病院醫師方ヨリ他器ト比較試驗ノ上數個ヅヽ御賞用ノ所夥ク樞密院文部省外務省農科大學大審院一條公二條公九條公鷹司公嶋津公德川公同老公同侯山內家大山侯蜂須賀侯以下八十余華族方及實業家ヨリ昨年末迄己ニ貳拾萬余ニ達シ大抵御試用後重テ御賞用好評ヲ受(委細ハ御照會ヲ乞フ)

◎正價荷造共金六圓也

東京市麴町區隼町廿番地　山本賣店

三はんし版

メリーエム ウエルソン女史 大野松波女史 合著

洋食のおけいこ

全一冊石版刷表紙頗美本挿繪十五個　定價金廿四錢 郵稅金四錢

毎日喰るものを餘分な費へをせないで甘く拵らえるのが料理をなさる方のお骨折です西洋料理の法も一家の婦人方わドウシテモ心得て居なくてはなりません此書は餘計な費えをかまないで毎日の惣菜にもなる樣にごく解り安く總振かなつきで又繪も澤山に入れてありますし其に食方や御客に出し方等も書て有升から小供にもヨーク解り升西洋料理と申しても種が牛肉や豚肉にかぎりたる譯でもなし道具も可成有合で間に合せる樣にしてありますからどんな田舍に居てもわけなく出來ます何わと兎に角此樣にやさしい書わこれが初めてゞ外にはありません甘いものを安く拵らいて內の方々を喜ばせるのは何よりの御樂みだろうと思います

●第一版の三千冊わ、一週間で賣切になりましたが再版が出來ましたから御注文を願升

東京市神田區小川町(電本三一五七)　寶永館
東京市神田區裏神保町(電本一〇三六)　冨山房
大阪市南區鹽町通三丁目(電東三五九九)　修文館

關藤治郎編

普通臨床 看病法

正價金四拾錢 郵稅四錢

「書中目次」(精圖數十入)看護婦の責務◎病室◎冷罨法◎病蓐◎吸入法◎(巴布)作り方及應用◎外用藥用法◎芥子泥◎飲食物の與へ法◎飲物調理◎服藥の與へ法◎老人小兒藥量秤量及びめゑとる尺比較◎皮下注射法◎體溫計測法◎脈搏を計る法◎呼吸を計る法◎座藥施行法◎座藥使用法◎尿に就て必要なる事柄◎腔洗滌法◎發泡膏應用◎脚湯法◎人工浴一覽表◎腰湯法坐浴◎吸角法◎水蛭用法◎出血及其止血法◎火傷及其手當法◎凍傷及其手當方◎中毒及其手當法◎繃帶及使用法◎按摩法◎外科看護法◎婦人科看護法◎產科看護◎法◎乳母の選擇及乳兒の攝生◎病態の觀察方法◎傳染病及取扱方法◎傳染病消毒法◎傳染病看護婦の注意◎熱性諸病看護方◎肺結核痲疹回歸膣窒斯、間歇熱、肺炎、肋膜炎、腹膜炎、盲腸炎、腦膜炎、癲癇、貧血、武雷篤氏病、(腎臟炎)耳下腺炎、破傷風(てたぬす)强直症、鵞口瘡、百日咳、喘息、咯血、精神病、看護法◎電氣使用法◎夜中看護法◎死體取扱方法◎食用品分析表及び消化時間◎水の試驗法◎牛乳試驗法及び人乳分析◎溫度表

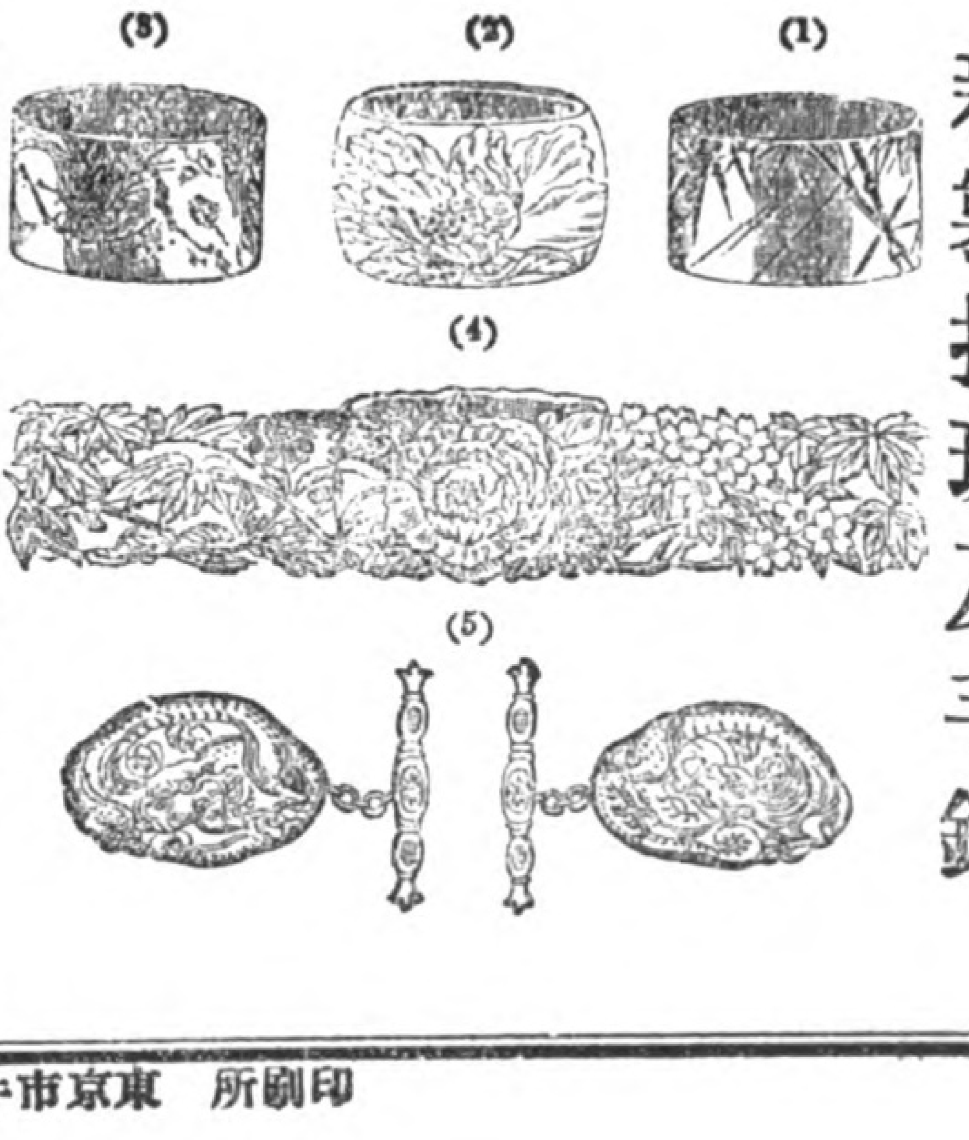
醫學士馬島珪之助先生閱　關藤治郎先生著

普通衞生 療病新書

附り處方調劑　正價六十錢　郵稅四錢

發兌元　東京神田鍛冶町(電話本九四九)　誠之堂　(賣捌各地書店に有)

新製指環及手釦



(1) 價廿一圓八拾錢……廿二金三匁付片切彫
(2) 價廿七圓八拾錢……同……高彫
(3) 價二拾圓八拾錢……同……片切彫
(4) 價五拾六圓五拾錢……同四匁付……高彫
(5) 價卅二圓九拾錢……十八金三匁付高彫

時計寶玉類貴金屬美術品及銃砲火藥商　天賞堂

東京市京橋區尾張町貳丁目拾六、七、八、九、番地　電話新橋(特三三三)(三一五三)

天賞堂出張所々在地　東京市神田小川町 ◎橫濱市 ◎名古屋市 ◎大阪市 ◎廣島市 ◎熊本市 ◎長崎市 ◎小樽市

正四位勳三等醫學博士 三宅秀先生著　大日本女學會發行(日本女子大學校教科書)

家事衞生

總クロース綴ぢ金文字入り菊判二百四十頁　定價金六十錢　郵稅金六錢

此書は文部省學校衞生顧問內務省中央衞生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑託により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育見看病の五編ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき樣懇切に說示されたる世に類なき家庭主宰者の寶典なり

●賣捌所　東京神田區一橋通町七　有斐閣

愛國婦人「をんな」並に女學講義廣告取扱

神田區千代田町　博報堂　電話本局一四四番
京橋區尾張町　弘報堂　電話新橋八五二番
京橋區八丁堀中町　一星社
日本橋區上槇町　萬年社　電話本局一一二五

明治三十六年十一月廿五日發行(每月十日廿五日二回)
發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　大日本女學會內
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第四十二號附錄

IMPERIAL LIBRARY 帝國圖書館

評議員　陸軍少將吉田清一夫人　吉田里子

新潟縣幹事　川越みき子

京都府幹事　伊澤千年子

明治三十六年十一月廿五日發行（每月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　大日本女學會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

總　裁　小松宮頼子殿下

副總裁　鍋嶋侯爵夫人

推戴贊成員

有栖川宮大妃董子殿下
東伏見宮妃周子殿下
華頂宮妃經子殿下
梨本宮妃伊都子殿下

其他贊成員貴婦人一百餘名

大日本女學會

新學期を開き何人にても入會を許す

◎本會は女子教育の普及發達を圖らむ爲に女子必須の諸學科を掲けたる女學の講義錄を發行し種々の障碍の爲に女學校に入學すると能はざる女子に居ながら修養を積ましめ以て一般女子の地位を高めん事を目的とす

◎本會發行の女學講義は畏くも　皇后宮の御覽を辱うし殊に御歌下賜の光榮を擔ふ

◎本會は第一流の名家をすぐりて講義を囑託し其講義有益にして趣味に富めるは既に世の定評ある所にして明治二十八年創立以來已に貳萬五千人の講習修了者を出せり

◎女子素養の程度に應ぜん爲講義錄を高等と簡易との二種に別つ月謝は高等科金四拾錢簡易科金貳拾錢とし入會の節束脩（高等科四拾錢簡易科貳拾錢）を要す

◎女學講義初卷前期は十一月五日に後期は同廿五日に發行す詳細なる會則希望者は端書にて請求あり次第送呈すべし

東京市麴町區下
二番町卅七番地

大日本女學會

（電話番町千三百三十番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN